



# 住みよい幸せな国づくり

NPO 法人  
日本・デンマーク  
生活研究所【会報】  
第 37 号 (2021 年 10 月)  
発行人 千葉 忠夫

## 民主主義への道 20

理事長 千葉忠夫

### ・娘は日本に体験入学

9年生(中3)を終え、高等学校入学前に10年生まで息子は行ったが、娘はどうかというと、9年生を終えると日本の高等学校へ1年ばかり体験入学した。岩手県の沢内村の近くにある高等学校だ。この高等学校は日本全国で初めてデンマークの日欧文化交流学院に社会福祉の研修生として高校生を派遣し、今でも毎年続けて生徒を派遣している学校だ。娘は夏のうちは沢内村の社会福祉協議会事務局の高橋氏宅に下宿、豪雪地帯で知られている地方なので冬は学校の寮に宿泊した。

デンマーク人の級友チーナと一緒に行ったのでホームシックにもかからなかったようである。

高校生なのに日本人はものすごく子供じみているというのが第一印象のようだった。また、いくつかの質問をして先生を困らせたようでもある。

「なぜ制服を着なきゃいけないのですか？」

「学校の規則だから」

「なぜピアスをしてはいけないのですか？」

「学校の規則だから」

「ピアスやマニキュアをしたら勉強できないのですか？」

「・・・・・・・・」

それはさておき、教師や級友たちには大変親切にしてもらったので、娘も友達のチーナも日本に対する良い印象を持って帰ってきた。日本語も片言はしゃべれるようになってきたので私もうれしかった。

### ・離婚が生む多くの非行の子供たち

話が前後するが、その後の生活学園はというと、相変わらずデンマーク社会不適應児との闘いだっただけ。私の学園にくる子供たちはすべて親が離婚した家庭から来ている。

少年院に勤務していたとき、同僚の生活指導員と話し合ったことがある。

「デンマーク人はなぜ幼い子供がいても離婚するのだ？」

「夫婦がお互い嫌になると毎日けんかばかりして子供に悪影響を与えるからけんかしない新しい家庭で育てるのが子供のためにも良いのだ」

「子供にとっては離婚しても、実の親が一番だろうが」

「だから週末や休みのとき、会うようにしているのだ」

デンマークでの離婚の一番の理由は、どちらかまたは双方にほかに好きな人ができたときだ。ほかに好きな人ができると、自分の子供よりもその好きな人の方に愛情が行ってしまうのだ。日本人だったら子供が小さいからとか、世間体が悪いからといって我慢するのではないだろうか(もっともこれは30年前の日本かな)。

いずれにしても親の愛情を半減された子供は、すべての子供ではないが、その不満を非行の方にぶつけていることは事実だ。生活学園はこれら破壊された家庭からきた社会不適應の子供たちを私たち正常な家庭で生活を共にさせ、社会復帰を目的としたのである。当然彼らと私の息子や娘と争いが起きることもあった。そのときは理由はどうであれ、まず自分の子供を叱った。自分の子供は彼らが先に悪いことをしたと言い張るのだが???

後で子供を呼んで、

「Ken よ、おまえが悪くなかったのはわかっている」

「じゃどうして僕を悪者にしたんだ？」

「それはなー、あのときクラオスを私が叱ったら、その後クラオスの話を聞いてくれる親がいないんだ。誰も慰めてくれない」

「でもクラオスの方が悪かったんだ」

「そのとおり、だけどおまえはこうして訳を話している親が身近にいるじゃないか」

学園の子供と争いがあるたびに、息子や娘が悪者にされるので、彼らはだいたい私に不満を持っていただろう。私は密かに、自分の息子や娘を社会不適應児にしてまでもこの仕事を続けることはすまい、と思った。

### ・「国民高等学校」の創設を思い立つ

1990年代に入ると日本からの社会福祉研修で訪れる来客が増え始めたので、私は生活学園からデンマークの伝統ある国民高等学校にしたいと思うようになってきた。生活学園はすでに国民高等学校の形式を取り入れて運営していたので、全寮制だから食住を共にしながらじっくりと社会福祉研修ができるし、同時に日本に興味を持つデンマーク人に対し、

日本の文化や武道を伝達できると信じたからである。しかし、正式にデンマーク文部省の認可による国民高等学校創設には幾多の問題点があることを思い知らされることになった。

### ・国民高等学校設立へ

デンマークにおいてデンマーク政府の文部省が認可する国民高等学校（フォルケホイスコーレ）を設立させるにはいろいろな段取りを経なければならぬ。まずは、デンマーク文部省に学校認可の申請前に学校の母体となる建物や敷地（最低でも完成時の6分の1程度）を必要とした。学校を発足させてデンマーク政府から援助が出るまで一切の公的援助は得られないのである。しかし、この最低条件を満たすことは生活学園を運営していたので問題はなかった。学校を設立させるにはさらに理事会を発足させなければならない。この理事会には生活学園の理事に引き続きなってもらようお願いした。



ボーゲンセ・フォルケホイスコーレの最寄りバス停に設置されている標識の現ノーフェンスフォルケホイスコーレのホームページより

### ・定款をつくる—政府監察官が親切に助言してくれた—

さて、認可までの経緯を記そう。

1. 国民高等学校の定款の承認は1年前までになされなければならない。

この定款の第一条・学校設立の目的は何回となく文章の訂正を強いられた。また、学校名を Dansk Japansk Kulture Højskole（日欧文化交流学院）で申請していた問題なかったのだが、途中から学校が存在する地名をつけるようにと指示され、理事会は不本意ながら Bogense Folkehøjskole としたのだが、この名で後に大変と迷惑を被ったのだ。

国民高等学校はデンマーク文部省通達第37条により全人教育を実施することによって、学生の人格形成に寄与する学校として国の補助を得る資格を有するもので、さらに同通達259条により上記目的を達成する国民高等学校は全寮制でなければならないと規定されている。

定款・設立趣旨 Bogense Folkehøjskole 日欧文化交流学院は上記2通達の規定を満たすものとして同国ボーゲンセに設置される学校法人である。日欧文化交流学院は国籍、宗教、思想、性別を問わず18歳（実際には17.5歳）以上の人々に開かれる全寮制の教育の場であり、心身両面の鍛練によって自信を持たせ、使命感ある人間を育成するとともに、自己にないものをほかに学び広く自国と他国を比較学習させ、国際相互理解ひいては世界平和に寄与することを目的とする。

この設立趣旨のほか、いろいろと学校法人についての規定などすべて一字一句チェックされ、訂正し承認される。定款が承認されるまで文部省に足を運んだのは一回だけ、逆に文部省の監察官が何度となく来てくれていろいろと助言してくれたのには驚いた。監察官「Chiba、デンマーク文部省が認可する国民高等学校はデンマーク人のためのものである」

千葉「はい、分かっております。しかし留学生として外国人を受け入れることはできるはずですよ」

監察官「それは日本人のことか？」

千葉「大部分は日本人になると思います」

監察官「分かった。しかしデンマークの学校だからデンマーク人の学生が半数以上を満たさなければならない。また学校名は Dansk Japansk Kulture Højskole はまずい。学校所在地の地名を入れるべきである」

千葉「はい、デンマーク人学生が半数以上であるべきことは分かりましたが、なぜ学校名を変えなければならないのですか？」

監察官「デンマークの国民高等学校は日本人のためにあるのではなくデンマーク人のためのものであるからだ」

千葉「分かりました。それではご指示のとおり正式名 Bogense Folkehøjskole として申請いたします。ただし、英名として Danish Japanese Culture College と呼んでいいのでしょうか？」

監察官「かまわない」

千葉「同様に日本名は日欧文化交流学院とさせていただきます」

監察官「デンマークの国民高等学校はデンマーク人のためにあることを忘れちゃいけないよ」（ウインクして言った）

千葉「分かりました。デンマーク人のための学校を作ります」 文部官僚との会話も極めて日常会的に行われ、しかも本来なら私が文部省に出頭しなければならないだろうと思われるのにボーゲンセまで来てくれたのだ。

この手記は月刊「権利闘争」（権利問題研究会発行）にて連載されたものです。転載の許可をいただきました関係者の方々に感謝いたします。

## NPO 新規事業

### デンマークと日本をつなぐ・オンライン研修塾 内容紹介 (1)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って行動・会合・会食の自粛が要請されている中で Zoom を利用した理事会を開催したことを契機に、Zoom を利用した学習会を開こうということになりました。

名称を「デンマークと日本をつなぐ・オンライン研修塾」とし、原則的に毎月 1 回開催、テーマはその都度参加者で希望を出し合う、必ず実名で参加することを条件にその都度参加者を公募するという方法で現在までに 5 回開催しました。参加者募集と Zoom ミーティングの主催、コーディネーターを前田事務局長、主任講師を千葉理事長、塾長を茂木副理事長が担当しています。

第 1 回は 5 月 22 日 (土) 15 時から「デンマークの近況 (新型コロナウイルスの感染対策を含む)」をテーマに理事 6 名、応募者 11 名の参加で開催しました。千葉理事長は概略「日本を幸せな国にしたいという思いで 54 年前にデンマーク (以下 Dk) へ渡った。Dk が一番の理想であり、日本へは良い面だけを紹介している。どうしたら日本も幸せな国にできるか、答は出ている。教育と民主主義が大事だ。日本人が現地で研修する一助としてフォルケホイスコーレ (日欧文化交流学院) を設立した。帰国して講演会も各地で開いている (鹿児島では 20 回以上になる)。会場での手応えは良いが……何年経っても日本は変わらず暖簾に腕押しという感じだ。」と語った後、最新のジェンダー格差指数で Dk が大きく順位を下げた理由を「2 名の政治家がセクハラで辞任したこと、Dk は議員のクォーター制を採っていないので女性国会議員の比率がたまたま下がったこと (男性 109 名、女性 70 名)、内戦で男性が戦死し女性が様々な役割を担わざるを得なくなったアフリカの国々が順位を上げたこと」などと解説、経済情勢では「成長率 4.5%~5% を目標にしており失業率も 5.6% と変わらず、個人所得額は世界で 6 位である。コロナ下でも安定している。」と話してくれました。

新型コロナウイルス問題でアジア系住民に対する差別が欧米で見られるということに関連しては Brenderup 市在住の T さんは「Dk 人の眼が気になる。他の日本人も同じらしく視線を感じるというメールもある。やはりストレスになる。」と語りコペンハーゲン市に在住の B さんは「元々移民が多く、コペンハーゲンは労働者階級も多いので、差別はほとんどない。」と話してくれました。

この後は参加者の質問に分かる人 (主に千葉理事長) が答え、意見があれば参加者が意見を交わす形で研修塾は進行しました。まず H さんから「デンマーク政府が国連勧告に従わずシリア難民を強制送還するというのは本当か」という質問があり

「政党は難民を受け入れたくないが国連勧告には従うべきという態度だ」という説明がありました。更に IS に囚われている母娘の救出に際し社民党党首は「祖国を裏切って IS に協力した挙句囚われた者を何故助ける必要があるのか?」という姿勢だったのが世論に屈して救出した話も紹介されました。

話題は Dk のコロナワクチン接種、感染対策に移り、最初に経過と情勢を知らされました。

感染拡大は昨年 2~3 月ごろからで 12 月 16 日ごろピークに達した。政府は直ちにロックダウンを実施、飲食店・理美容店・刺青業や学校は閉鎖されたが、外出は認められた。今年 5 月ごろから徐々に解除されている。12 月 27 日オーデンセで最初のワクチン接種が始まり、医療従事者、介護職から高齢者の順に現在は 60 代が対象で 19% が 2 回目の摂取を終えた。家庭医は接種に関わらず、国立感染症研究所からの接種案内に記された複数の日程から都合に合わせて 1、2 回目の日程と接種会場を選んでクリックすると予約が完了する。

ロックダウン解除後は、映画館や美術館、カフェ、買い物等にはワクチン接種修了証明 (コロナパスポート) か 72 時間以内の陰性証明が必要。PCR 検査は大きなスーパーマーケットの駐車場などに設けられたブースでドライブスルーで受けられる。最近では病院でも予約して受けられる。証明書は紙または携帯アプリ、どちらでも有効。

以上の説明の後で参加者の質問と回答に移行。

Q1 スウェーデンはなぜロックダウンしないのか。

回答 (千葉) 独自路線だという思いからかと推測。

ロックダウンに関連して前出 B さんからの発言

「Dk の幼稚園・保育園のロックダウンは最初の 1 ヶ月だけ。園にいると感じなかったが国民学校の子を持つ親は大変だったが、子どもには親が家にいる、外へ一緒に散歩に行ける等で良かった。子どもはコロナ下でむしろ落ち着いてきた。親の大切さを痛感した。保育士としてはロックダウンになって子どもたちには良かったねと話している。話は変わるが離婚率は上がっている。夫婦関係が密になるため、理解が進む? 反面、ストレスも大きくなるのだろう。」

Q2 ワクチン接種をしないという選択は可能か。

回答 (千葉) 自己決定が尊重される。

Q3 証明が必要な所へは行けないことを覚悟して?

回答 (千葉) PCR の陰性証明で良いので。

Q4 日本では PCR 検査が 1 回 2 万円もするが Dk は?

回答 (千葉) 無料。医療費一般と同じ。

話題はまた変わり「精神障がい者はパラリンピックにも出場できないが、どう思うか」という問いが投げかけられました。「聾啞者の場合はデフリンピックである」「そもそもオリンピックとパラリンピックの区別が必要なのか」等の意見が出ましたが次回に持ち越し「精神障がいは病気というのが医学界の認識でありやむを得ない」という判断になりました。

第2回は6月5日(土) 15時から「デンマークの高齢者福祉」のテーマで実施しました。参加者の顔ぶれは一部変わりましたが、人数は5月と同じでした。

Dkの憲法記念日であるこの日、千葉さんはまず「福祉という言葉を変えたらどうかと前から言っている。高齢者、障がい者、児童、それぞれの生活が満足なら福祉などと言わずに済む」と話してから、Dkの高齢者福祉の変遷と現状を説明しました。

50年前、自宅で暮らすことが難しい高齢者は老人ホームに入居、20㎡位の個室で暮らしていた。80年代にプライエム(特別養護老人ホーム)は作らないという政策転換があり、高齢者センターの中に老人が居住するようになった。1980年には「高齢者三原則」が定められた。①継続性(自分の生活環境の継続。可能なら自宅で生活)②自己決定(自己決定に基づき自由に生活。国民すべての権利)③自己資源の開発(残存能力の活用などと言う人もいるが……)である。当時のDkの高齢者福祉の様子は大熊由紀子さんの「寝たきり老人のいる国、いない国」や羽田澄子さんの映画「安心して老いるために」などで日本に知らされた。1976年、国民すべてに適用される生活支援法が制定され98年に社会サービス法に変わった。「サービスしてあげる」で良いのか? 本人が望む生活が可能になるように支援するのが正しいあり方だ。(さらに詳しくは当NPOのホームページに公開されている「会報」11、12号の1ページ目『高齢者福祉』を参照してください。)

1986年民間団体「高齢者の権利」が結成され、高齢者が望むことをまとめていった。現在会員は90万人くらい。また各市に高齢者委員会が設置されている。(高齢者委員会については当NPOのホームページに公開されている「会報」27号の4ページ目を参照してください。)

DkのTさんから「コロナ下だがげんざいは諸活動を活発化させようという時期で高齢者も生き生きとしている様子が見える。75歳の方がこれから皆のためにたくさんコンサートをしていこうね」と話したりしている。」という報告もありました。(以下、次号に続きます。文責:茂木俊郎)

## 2021年度総会について (お詫びとお知らせ)

昨年度から2021年5月22日(土曜日)に実施とお伝えしてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症は未だ収束せず、むしろ第4波の到来が心配される状況になっております。頼みのワクチン接種も当初4月と期待させたものが高齢者で7月中には等予想より大幅に遅れています。協議した結果、理事会としては今回も昨年同様書面総会の形を取る他ないという結論にいたりしました。

会員の皆様が総会参加のために東京まで往復する際の安全、安心も保証できない状況でした。会員の皆様のご理解をお願いします。

なお、未だ整わない資料がありますので整い次第郵送いたします。(事務局長 前田正志)

## 第11回研修塾 1年延期のお知らせ ～11<sup>th</sup> Weekend Folkehøjskole in Nara～

2021年11月12日(金曜日)から14日(日曜日)まで2泊3日で、奈良県橿原市で開催を予定していましたが、コロナの第5波が拡大し続ける中で最多27都道府県が緊急事態宣言下におかれ宣言延長が繰り返されるという状況下で、メイン会場から使用のキャンセルが伝えられ、今後の見通しも不確実なことから、理事会および奈良県の関係者と協議した結果、残念ですが今年度の開催は断念し、1年後を目途に同地で開催することにいたしました。

参加を楽しみにしていた皆様にはご期待に沿えず申し訳ありませんが、どうぞご了承ください。

総会資料を同封したいと発行を待っていたために延期のお知らせがぎりぎりになってしまったことを心からお詫びいたします。(副理事長 茂木俊郎)

### 日本の民主主義の危機は回避されるだろうか?

「日本の民主主義は危機に瀕している」と政権与党の総裁選で主張した首相が就任10日目で衆議院を解散し選挙戦に突入しました。31日の投票結果が、危機の回避につながることを願っています。これが届くころには結果も判明していますが。

**編集後記** ★心積りより2か月以上も発行が遅れてしまったことを只恥じ入りお詫びするしかない。★最近の感染者数の激減は喜ばしいがコロナ禍はこれで収束するのだろうか。★特定の国のビジネスマンは自主隔離3日で良いとか。しかし日本人帰国者は相変わらずの2週間。★その間、部屋から出る事も施設の利用も禁止と某ホテルから千葉理事長に届いたメール。相変わらず国民には冷たい国だ。★基地から入る米国人は自主隔離0日の人もある? やりきれぬ思い。★皆様、佳い年を迎えられるよう残り数週間をお過ごし下さい(茂木)

### 発行所

〒292-0801

千葉県木更津市請西4-6-9

Tel & FAX: 0438-36-3565

お問合せ Tel: 090-9827-9262

茂木(もてき)俊郎

NPO法人ホームページ

<http://www.djsli.com>

メールマガジンの申し込みはホームページからお願いします。